



ニュース防災 14号

発行：興野町住宅自治会 責任者：会長

2016年10月18日



応急救護訓練を参加者全員で体験しました。(10月9日)

災害時だけでなく、突発的なケガをした時にも対応できるように、自宅にあるものを使って、手や足等ケガの箇所毎の応急救護の方法を参加者が全員で体験しました。



Q:講習はどんな内容だったの…?

- A: 1. 足や腕を骨折した時の固定する方法
 2. 切り傷の時の止血の方法
 3. ヤケドをした時の対処の仕方
 4. ケガをした人の負担を軽減する方法
 5. 救急車が来る前に出来ること

Q:自宅にあるものを使ってとは…

A:包帯や三角巾の代用品とは

風呂敷、スカーフ、ハンダナ、タオル、手ぬぐい、

添え木の代用品とは

ダンボール、木片、新聞紙、定規、鉛筆、折りたたみ傘、

紐の代用品とは

ネクタイ、ストッキング、手ぬぐい、クラフトテープ、ラップ

Q:それをどうやって使ったの…?

A:足や腕を骨折した時に固定する方法

- ・骨が折れて痛みがあるところを動かしてはダメ！！
- ・骨折や捻挫をしたところに段ボールを当てて、段ボールを手ぬぐいなどで縛ります。
- ・レジ袋の持ち手部分を首にかけて腕を吊るし、更に吊るした腕を紐で体にしっかり縛ると、腕の痛みを和らげます。

Q:切り傷の止血の方法を教えてください。

A:①直接圧迫法

病院へ行く前に、出血している部分にガーゼや綺麗な布を当てて、5分～10分程度ギュッと圧迫して、当て布(三角巾、風呂敷、包帯等)を巻き付けて、傷口を避けて結んで、腕を心臓より上にあげて、病院に行ってください。

②間接圧迫法

脇の下の心臓に近い動脈を親指で押さえて紐で縛るなどして、腕を心臓より上にあげて、病院に行ってください。

Q:ヤケドの場合は、水で冷やすと言われますが…?

A:ヤケドは、痛くなくなるまで15分～20分以上水をかけて冷やしてください。服の上からシャワーをかけて、ずぶ濡れのままで病院へ行ってください。

Q:ケガ人の応急手当の重要なポイントは…?

A:傷口からの感染症に注意！傷口の消毒は、水が一番！
 応急手当をする際には、まずは、水で手を洗ってビニールの手袋やビニール袋を使って、傷口に触れないようにすることです。

救急車が来る前に出来ること

Q:捻挫や骨折をした場合、震えがくる場合がありますが、

A:その時は、とにかく温めてやってください。

Q:腰等を打撲した人の手当の心構えは、

A:座布団を重ねてけが人の腰に添える等、楽な姿勢にしてあげることです。平らな板に乗せて5人位で搬送してください。

◎各家庭に配布済みの「東京防災」(黄色の冊子)P 176・P 222~P 225 参照

—参加者の感想—

- やってみてよかった。何回もやらないととっさの時には、やれないね。
- 身近なものでやる応急救護は、必要ですね。繰り返しやるといいですね。
- ケガの手当で先ず印象に残ったことは、感染症の対策が大事と言うことを、初めて知りました。
- 自分でやってみて、納得することが大切ですね。
- とても参考になりました。
- ガーゼを当てるのは、血液を吸わせることだと思っていましたが、ガーゼと皮膚との段差で布に力が加わって止血が効果的に出来ることが分かりました。
- とっさのときに出来るかどうか分からないが、でもやってよかった。
- ガーゼを当てるのは、血液を吸うだけでなく、ガーゼと皮膚との段差で布に力が加わり止血になります。



河川の氾濫や大雨の災害対策がスタート

最近の気象状況の変化により、伊豆七島の大島や広島、常総市、東北の岩泉市のような局地的な大雨による災害が増えています。荒川下流域では、氾濫することを前提に、浸水想定区域内全ての区、東京都、国等が減災のための目標と連携・協力のために、平成28年6月22日に「荒川水系(東京都)大規模氾濫に関する減災対策協議会」が設立されました。

足立区は、周囲を河川に囲まれ、北東部より南東部にかけて5m~0mに傾斜しています。更に地域には皿状の窪地があることや、大雨により一気に河川や下水道に流れ込み、排水能力を超えた下水管からの逆流現象など、都市型水害(内水氾濫)の対策が検討されています。

★足立区内に流れている河川は

荒川、中川、隅田川、綾瀬川、毛長川、伝右川、坊川、芝川、新芝川、旧綾瀬川、花畑川

★足立区のハザードマップを見ましょう！

各家庭に配布されているハザードマップには、

都市型水害(内水氾濫)や利根川、江戸川、荒川、中川・綾瀬川・芝川・新芝川が氾濫した場合のハザードマップがあります。確認しましょう。

災害対策部の今後の予定

月/日	講座・講習会	目的
1/15 (日)	救急救命士初級資格取得前講座	防災意識を高める
2/5 (日)	台所防災講習会	水や火をあまり使わなくても出来る調理体験

編集後記



駆け足で秋がやってきました。金木犀の香がやすらぎを運んでくれています。先日は、久しぶりにとても美しい十五夜を鑑賞しました。思い起こせば子どもの頃は、お月見団子にススキを供えて月を眺める優雅な習慣がありました。改めて、月明りってこんなにも明るかったのかと思いながら、しばらく時を忘れて眺めていました。(M・M)